平成１５年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ベニズワイガニ

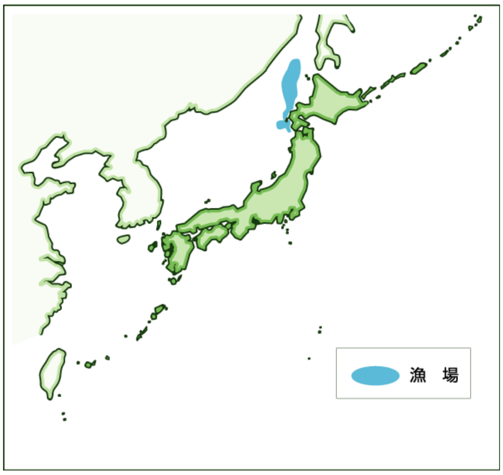
学名　*Chionoecetes japonicus*

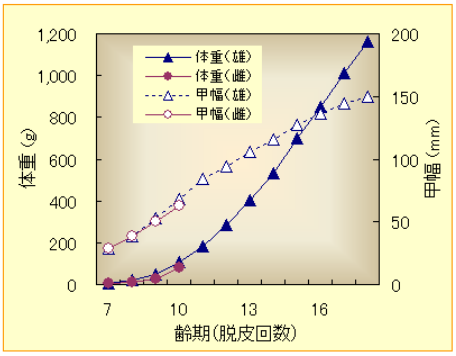
系群名　北海道西部系群

担当水研 北海道区水産研究所

生物学的特徴

寿命：	不明（脱皮回数を示す齢期は判明しているが、脱皮間隔が不明）
成熟開始年齢：	不明
産卵期・産卵場：	不明
索餌期・索餌場：	不明
食性：	不明
捕食者：	不明



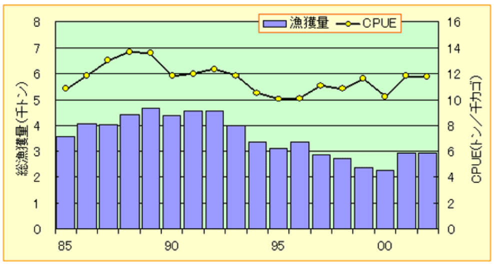


漁業の特徴

北海道におけるベニズワイガニ漁業はかにかごによって行われる。主に缶詰製造に用いられるが、ズワイガニの減少に伴いゆでて出荷されるものが多くなった。操業隻数は少なく、2002年は5隻であった。操業は、茂津多岬以南と以北の海域に分けて行われている。資源保護の見地から、漁獲の対象は甲幅95mm以上の雄のみに制限されているほか、北海道によって許容漁獲量が設定されており、各漁船への個別割り当て量に従って操業を行っている。操業期間は年によって変化し、2002～2003年には、茂津多岬以南では4～9月、以北では7月～翌年4月と、両海域間でずれがあった。集計にあたり、茂津多岬以北海域における翌年分の漁獲については、前年分の漁獲に足し合わせて扱った。

漁獲の動向

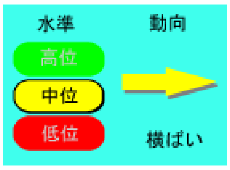
1990年代以降、漁獲量は減少傾向にあったが、2001年以降は3,000トン前後を推移している。北海道が設定した2002年の許容漁獲量は、茂津多岬以北が2,100トン、茂津多岬以南が1,200トンであった。近年は両海域ともに許容漁獲量の7～9割を消化している。



資源評価法

漁獲量が、あらかじめ定められた許容漁獲量によって制限されていることを考慮すると、漁獲量によって資源水準および動向を判断するのは適切でない。そこで、CPUEを資源水準の指標として用いた。

資源状態



1985年以降のCPUEの推移から資源水準を、また最近年5カ年のCPUEの変化から資源の動向を判断した。2002年度のCPUEは11.7（トン/千かご）で、1985年以降のCPUEの変動幅（10.0～13.7）の中位に位置することから、資源水準は中位と判断した。また1998年度から2002年までの5年間のCPUEは10～11付近で推移していることから、資源動向は横ばいと判断した。許容漁獲量設定による漁獲規制の下で、CPUEがほぼ一定の値を保っており、現行の漁獲規制は現在の資源水準を維持する上では適切であると判断される。

管理方策

現行の漁獲努力量の水準が適切であると判断されたことから、漁獲水準の削減は特に考えず、過去5年間の平均漁獲量をABClimitとした。また、同様の考えに基づき、ABCtargetはABClimitと同じ値とした。

	2004年ABC	管理基準	F値	漁獲割合
ＡＢＣlimit	2,651トン	Cave5-yr	-	-
ＡＢＣtarget	2,651トン	ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- CPUEを資源水準の指標とした
- 1985年以降のCPUEの推移から資源水準を、最近年5カ年のCPUEの変化から資源の動向を判断
- 2002年のCPUEは、1985年以降のCPUEの変動幅の中位に位置
- 現行の漁獲水準は現在の資源水準を維持する上で適切である

資源管理方策のまとめ

- 漁獲水準の削減は必要ではなく、現行の水準を維持
- 過去5カ年の平均漁獲量を2004年のABClimitおよびABCtargetとして採用

資源評価は毎年更新されます。